

## 鉄道遺産・鉄道資産を生かしたまちづくり～平成 30 年度第二回都市地域セミナー

中林光司 公益社団法人 日本都市計画学会 北海道支部

### 1. はじめに

北海道支部では、平成 31 年 2 月 28 日 (木) に、「TKP 札幌駅前」会議室において、「鉄道遺産・鉄道資産を生かしたまちづくり vol.2」というテーマで安平町道の駅をテーマに平成 30 年度第二回都市地域セミナーを開催しました。JR 北海道では今年 3 月に無人駅数か所と夕張支線が廃止になり、我々道民も真剣に鉄道と向き合うまちづくりを考える必要に迫られ、今回鉄道車両保存の実践活動と資金募集について安平町をモデルに学習することになりました。

### 2. 講演その 1

「鉄道文化をシンボル化した道の駅あびら D51 ステーション構想」

**安平町地域推進課 岡康弘さん**

今春安平町では「道の駅」がオープン。

以下「道の駅」建設にたどり着くまでのいきさつである。

安平町は平成 18 年に追分町と早来町が合併して成立。旧町名の「追分」は、道が二つに分かれる場所の意で、鉄道分岐を指す駅名「追分」が町名となり、鉄道が発展を促したが、現安平町カントリーサインには、鉄道関連のものは入っておらず合併の難しさを感じる。

「道の駅あびら D51 ステーション」だが、1992 年旧追分町時代に「鉄道文化村構想」、2005 年合併前の町長選公約に「道の駅」「鉄道資料館」を明記したが、2006 年合併による安平町誕生後 2017 年安平町総合計画では地域配慮から「鉄道資料館」のみを掲載。この間国鉄民営化、JR 北海道による度重なる合理化による職員減と町民激減から町から鉄道文化が薄れて行ったが、まちの活性化のため「道の駅」と鉄道資料館の一体検討が、再び前町長を中心に浮上した。反対意見も多く特に高速道路開通が観光客の流れを変え、物流道路に隣接する「道の駅」は失敗に終わるとされた。このため 2017 年度予算採決で薄氷の成立。その後鉄道文化衰退のなか、事業のヒントをある人物がもたらした。「国鉄退役車両を購入保存したいが協力を願えないか？」と。

### 3. 講演その 2

「安平町の道の駅で鉄道車両を保存するクラウド・ファンディング」  
**北海道鉄道観光資源研究会 矢野友宏さん**

その人は矢野さんと言ひ、「往年の名特急 おおぞらの車両キハ 183 の初期型先頭車両を購入し、旧国鉄特急色の赤とクリームに塗り



直して保存する」活動をしていたが、購入を急いでいた。それは、この車両達はミャンマーに譲渡後放置されたり、鉄くずとして売られるなど全滅への危機感があったため。なお、JR 北海道の払下げ条件は地方自治体とコラボだが、ことごとく断られた。そんな時、今後の展望を決めかねていた安平町が話を聞いてくれ、積極的に研究会の考えを取り入れつつ、SL と一緒に道の駅に置く逆提案もあった。こうして研究会と安平町の保存に関する協力関係が構築。残るは車両購入費用の調達だが、2018 年 1 月 1 日～3 月 31 日までのクラウドファンディングを立ち上げた。町の HP と町内全戸配布により理解してもらおう努力をした。こうして 3 月 31 日までに目標 1,100 万円を大きく上回り 1,386 万円が集った。この資金を使い塗装も終わったが、現地に運ぶ直前 2018 年 9 月 6 日に北海道胆振東部地震が発生し、移設は開園後の 2019 年 6 月まで延期となった。

現在の活動は、マスコット周知と T シャツ販売。



キハ 183 キハくん デゴイチせんぱい D51 の T シャツ

### 4. 鼎談

最後に上記二人の講師のほか、都市計画学会北海道支部幹事の松田泰明さんを交えての鼎談となりました。

岡さんからは、ネット効果を話していただき、その際に、矢野さんが毎日サイトに話題をアップしてくれたことが、皆さんを引き付けたとのこと。なかなかできないことを努力され、それが実ったことを話されました。

矢野さんからは、鉄道ファンだけでなく一般の人にもわかりやすく伝えることの重要性を話されました。

そして、研究会とのつながりで台湾にもある追分という土地との小学校の交流が始まるようとしています。

### 5. おわりに

今回まちづくりとは、数十年かけて温めた思いを行政や地元の人だけでなく、その道に通じた人の熱意も合わさってできるものだと感じました。興味のある分野のオタクと呼ばれる人々がその土地を訪問する「聖地巡礼」という観光が行われていますが、その道に通じた人達の力はものすごく大きいことが、よくわかりました。

今後色々な鉄道を知り、色々な観光振興のあり方を知りたいと思ったセミナーでした。

